



12月 えんだより



ともしび保育園 12月1日発行

救い主の誕生

クリスマスの賛美歌 I—100には、次の歌詞があります。



1. 生けるもの凡て^{すべ} おののきて黙せ、 世の思い棄てて
ひたすらに仰げ^{あお} 神の御子は^{みこ} 降り給う^{くだたま} このきよき日にぞ
2. 君の君なれど マリヤより生れ^{うまぶね} 馬船^{なか}の中に
産声^{うぶごえ}をあげて 己^{おの}が身^みをば 与え給う^{あたたま} 罪人^{つみびと}のために

この賛美歌は、神さまが救い主イエス・キリストをこの地上に下さった御心^{みこころ}が示されています。

また、次の聖書の言葉がその本質を理解する手立てになると考えられます。

「キリストは 神の形でありながら 神と等しくあることに固執^{こしつ}しようとは思わずかえって自分を無にして 僕^{しもべ}の形をとり 人間と同じ者になりました。

人間の姿で現れ へりくだって、死に至るまで それも十字架の死に至るまで従順^{じゅうじゆん}でした。」(フィリピの信徒への手紙 2:6~8)

これらの中心使信は、神を知らなかったこの世に、全ての者が神の子に回復するために、私たち全ての罪^{つみ}や咎^{とが}を背負う救い主イエス・キリストを贈って下さったことにあります。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書 3:16)

クリスマス おめでとうございます！

ともしび保育園協力牧師 今関公雄

